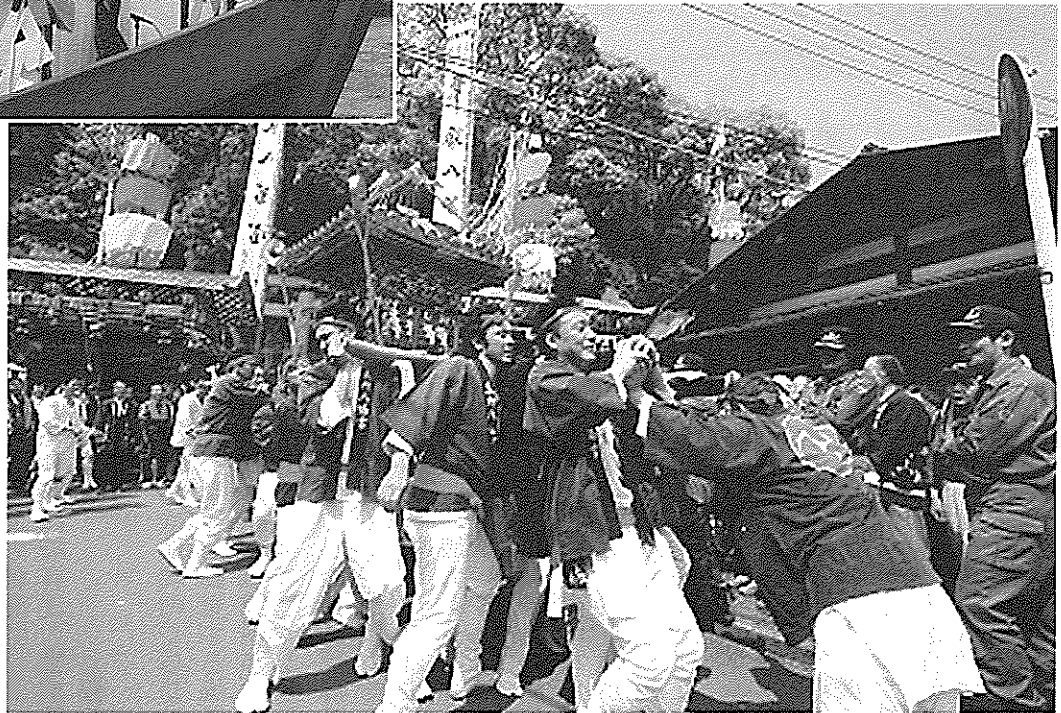
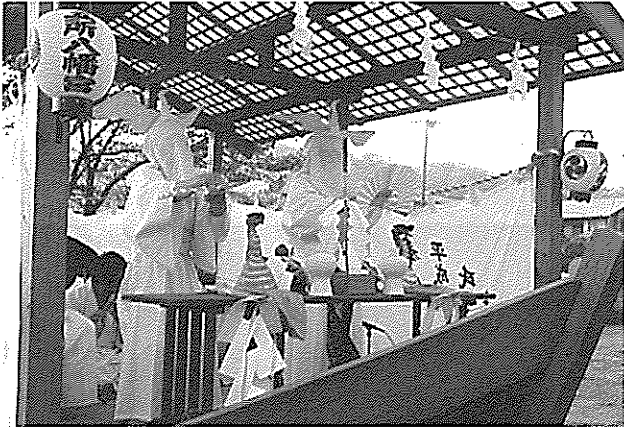


公民館かながわ



目次

県公連事業報告	
平成二十三年度公民館館長等研修会	2
平成二十三年度館長・公民館運営審議会委員等研修会	3
平成二十三年度生涯学習指導者研修「公民館担当者コース」	4
第五十三回神奈川県公民館大会	5
サークル紹介	6
「おはなしクレヨン」 (相模原市桂北公民館) 「Magical Crew」 (清川村生涯学習センターせせらぎ館)	6
わが館の取り組み	7
「キャンパスおだわら」 (小田原市生涯学習センターけやき)	7
職員からの一言	
茅ヶ崎市教育委員会教育推進部社会教育課鶴嶺公民館担当課長兼館長 米山 明夫	8
表紙写真解説 《五所八幡宮例大祭》	8
編集後記	8

県公連事業報告

「平成二十三年度公民館館長等研修会」

八月十一日(木)あつぎパートナーセンターにおいて公民館館長等研修会が開催されました。一〇九名の参加者は講師の話に聞き入り、充実した研修であったという声が多く聞かれました。

◇ ◇ ◇

①人権講話「公民館職員としての人権の意識化」

白鳥 稔氏

初めに、東日本大震災に関するエピソードが紹介されました。被災地から避難された方に心無い反応をする方がいる一方で、被災地に通じる路上で、支援活動に通う人々たちにお礼のメッセージボードを掲げる小学生の姉弟がいるという話でした。

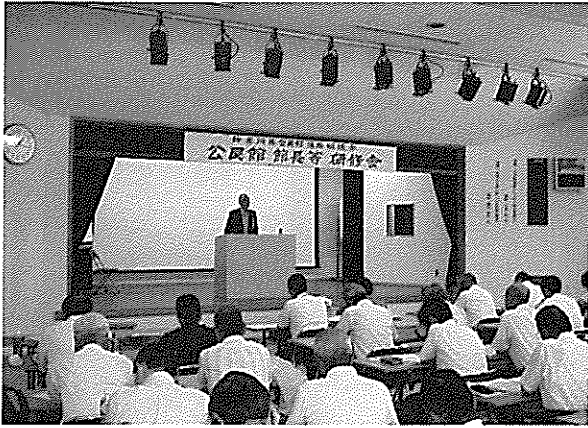
人権とは人を大切にしていこうということ、対人関係の中で生まれてくるということ語られました。

また、公民館職員への四つの提言がありました。一つめは、講座や会議で挨拶をする機会には、人権に関する問題について触れてほ

しいというものです。お礼のメッセージボードを掲げる姉弟の話のように、人間の心の中に光が灯るような話をお願いしたいとのことでした。

二つめは、人が大勢集まる公民館の職員として、人権侵害を見抜く力を身につけてほしい、三つめは、公民館に来る人を大切に、誰もが公民館で気持ちよく過ごせるようにしてほしいと語られました。

四つめは、公民館内の掲示板の片隅に「館長コーナー」「職員コーナー」を設けて、来館者からの反応を何らかの形で広がりにつなげてほしいとお話しされ、最後に相



手があつての人権であると講話をまとめられました。

◇ ◇ ◇

②講演「地域力を育む新しい公民館の創造」

高崎経済大学准教授

櫻井常矢氏

公民館は地域のくらしを支えるために学習活動をする場所であるというお話から講演が始まりました。

地域の力がなければ解決できない問題は多く、地域力を育むことが大切であると語られました。

また、地域力を生かすために社会教育委員の会議や公民館運営審議会という住民参加の制度があること、公民館は市町村が設置するので、市町村の独自性が発揮できる構造になっていること、そして、公民館は施設の運営を通して自分たちの地域の問題を解決する方法を学べる場であるということ説明されました。

地域づくりのために事業を行う際の注意すべき点として、事業活動を行うこと自体が目的となってしまう事例が多いが、地域課題を解決することが事業活動の目的でなければならないと話されまし

た。

これからの公民館に向けてのお話では、本来に必要なものは何かを見極め負担を減らすこと、公民館が地縁(行政区・自治会)、志縁(市民活動・NPO)をつなぐ役割を担うことを強調され、社会教育という営みを是非大事にしていただきたいという言葉でまとめられました。

講演後、「非常に分かりやすく、実例も交えながら話していただけた」「公民館活動の原点を理解した」等、講演内容についての高い評価と共に、熱意のある話し方への賞賛の声が多く聞かれました。



「平成二十三年度館長・公民館運営審議会委員等研修会」

十一月二十五日(金) 相模原南市民ホールにおいて館長・公民館運営審議会委員等研修会が開催され、一四六名の参加がありました。参加者からは大変参考になった、役立つ内容だったという声が多く聞かれました。

①事例発表「地域で育てよう子どもたち」

相模原市立相原公民館長 戸塚厚生氏

平成二十二年度に文部科学省の第六十三回優良公民館表彰を受けた、相模原市立相原公民館の戸塚厚生館長が取組を発表されました。

初めに、公民館の運営組織として相原公民館運営協議会のお話がありました。協議会には実行委員会と専門部会があり、専門部会は文化部、青少年部、体育部、広報部に分かれていて、事業ごとに連携して活動されているとのことでした。

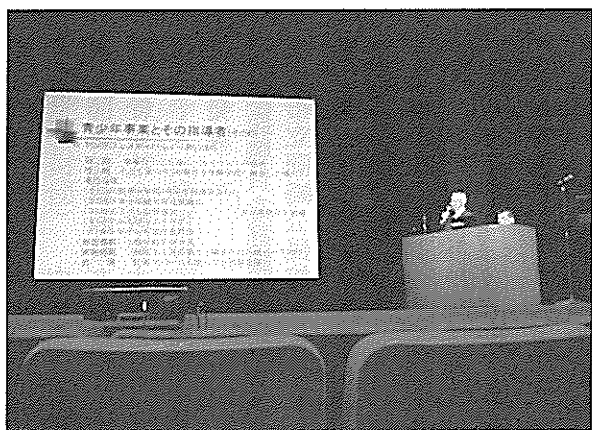
青少年対象事業のお話では、青

少年部が自治会やPTA、子ども会、青少年指導員等から構成されていることが説明され、地域の子どもたちは地域の手で育てることが大切であると話をされました。

事業の一つである「ザ・わんぱく塾」は、学校の週五日制導入に伴い、子ども達が地域で体験学習ができる機会を作り続けている活動であると説明されました。

また、青少年対象事業の実施にあたっては、地域の教育力の活用、環境学習、体験活動、スポーツ教室等様々な要素を取り入れていることが窺えました。

子どもたちが次世代を担うために地域が動き、それを継続してほ



②講話「地域の居場所としての公民館の可能性」

神奈川県 久田邦明氏

被災地に生まれた住民が寄り集うことのできる居場所、住民が自らの手で作る住民施設等の事例が紹介されるとともに、地域の居場所としての公民館の可能性についての話を伺うことができました。

被災地での取組として紹介されたパラソル喫茶は、屋外にビーチパラソルとテーブルセットを備えた簡易な喫茶スペースだそうです。

避難所は人の出入りが多く、継続したコミュニティを作り続けるため、気軽に立ち寄ることのできるパラソル喫茶は、人とのつながりのきっかけ作りに役立っているとのことでした。

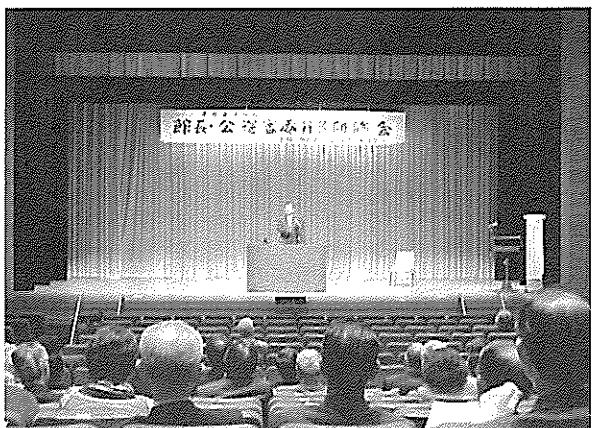
また、子どもや若者に対する施設提供事例として、その日限りの団体登録で小学生でも部屋を借りることができる、大阪府枚方市の生涯学習市民センターが紹介されました。

都市型公民館についての話では、顔見知りでない人々が知り合

う地域の居場所として、色々な人が気軽に利用できる公民館ロビーの可能性を語られました。

最後に、公民館の目的として地域社会の再生を、今後の公民館の方向性として、開放的な施設とし、多様な住民施設をつなぐ役割を挙げられました。

講演後、「大変役に立つ内容で勉強になった」「豊富な具体的事例、体験を聞くことができた。視野が広がった」「地域の居場所としての公民館を目指すところに共感を覚えた」等、知識を深めるよい機会となったという声が多く聞かれました。



「平成二十三年度生涯学習指導者研修」公民館担当者「コース」

六月二十一日から九月八日まで四回にわたり、「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」をテーマに公民館担当者コースが開催されました。この研修は、県教育委員会と県公連の共催による事業であり、今年度は生涯学習情報センターを会場に、公民館及び類似施設職員、社会教育・生涯学習行政職員延べ百二十三人の参加がありました。内容については次のとおりです。

社会教育主事兼指導主事

内田源一郎氏

県立図書館横浜駐在事務所

副主幹兼社会教育主事

岩本純子氏

④体験発表

「公民館職員を経験してみて」

平塚市立岡崎公民館主任

高木知幸氏

(参加者の声)

- ・ 実技を中心に効率よく理解できた。大切さがわかった。
- ・ 歴史的背景から公民館の位置づけを学ぶことができた。
- ・ メンバーから様々な意見が出たので色々気づかされた。
- ・ 他市の事例や様子を知ることができた貴重な機会だった。

◇第一回 六月二十一日(火)

①ワークショップ

「アイスブレーキング」

足柄上教育事務所

社会教育主事兼指導主事

小畑利幸氏

②講義「公民館の原点と現状」

県公民館連絡協議会会長

京 利幸氏

③ワークショップ

「学習者への対応」

「人権の視点から」

湘南三浦教育事務所

◇第二回 七月六日(水)

①講義とワークショップ

「公民館職員の力量形成」

横須賀市教育委員会教育総務部

生涯学習課主査兼社会教育主事

高橋直人氏

②講義とワークショップ

「地域住民とのコミュニケーション能力の向上」

湘南話し方センター所長

松永洋忠氏

③事例発表

「公民館における子どもが読書

に親しむ環境づくり」

相模原市立大野南公民館館長

中村洋子氏

(参加者の声)

- ・ 色々な視点、色々な人との関わり方の必要性を再認識できた。
- ・ あいさつ、コミュニケーションの大切さを再認識できた。
- ・ 地域人材が読書活動で活躍する好事例であった。

◇第三回 七月二十一日(木)

①講義とワークショップ

「ワークショップ技術を学ぶ」

(有) 毎日の生活研究所

代表取締役

矢郷恵子氏

(参加者の声)

- ・ 明確なイメージやビジョンを持つことの重要性を学んだ。

◇第四回 九月八日(木)

①講義「地域の居場所としての公民館の可能性」

公民館の可能性

神奈川大学講師

久田邦明氏

②講義とワークショップ

「真に地域に根ざした公民館」

いわき明星大学教授

神山敬章氏

(参加者の声)



- ・ 様々な視点での住民施設について情報を得ることができた。
- ・ 社会教育が教育委員会に置かれる意義などが聞けてよかった。

研修を通じて、「色々な公民館の方とふれ合うことができた」「公民館の職員としてレベルアップできた」「学んだことを生かしていきたい」等の声が参加者から寄せられました。公民館職員に求められる豊かな知識、能力の向上の一助として、今後とも積極的な参加をお願いいたします。

「第五十三回神奈川県公民館大会」

テーマ「住民の暮らしと地域を創り続けた県公連六〇年の軌跡から公民館の明日への展望を切り拓く」時代が求める公民館のあり方をめざして

厚木市文化会館 小ホール

第五十三回神奈川県公民館大会が平成二十四年一月二十七日に、県内各市町村公民館関係者、社会教育関係者など三六〇名が参加し、厚木市文化会館小ホールにおいて盛大に開催されました。

今大会は、公民館の原点に立って、住民の暮らしと地域を創り続けてきた公民館のあり方等を考えていく大会にしようという趣旨で開催されました。

◇第一部 アトラクション

多摩川アルプホルンクラブによる演奏、グループ「波」（声楽家グループ）による合唱が行われました。

◇第二部 式典

グループ「波」と会場による『公民館の歌』斉唱に始まり、本会京利幸会長、厚木市教育委員会平井広教育長の主催者あいさつ、各種表彰、小林常良厚木市長、県教育

委員会福寿庸生生涯学習部長から御祝辞をいただきました。

○平成二十三年度表彰

・全国公民館連合会表彰

〈優良職員表彰〉

青木 久（相模原市立陽光台公民館）

〈功労者表彰〉

栗原 旭（秦野市立西公民館）

・神奈川県公民館連絡協議会表彰

〈優良公民館表彰〉

川崎市高津市民館

秦野市立堀川公民館

〈職員等功績表彰〉

木下敬之（厚木市立睦合南公民館）

〈永年勤続表彰〉

岡崎慎一（川崎市教育委員会生涯学習推進課）

夏井美幸（川崎市多摩市民館）

中村高明（川崎市幸市民館）

大久保眞二（相模原市教育委員会生涯学習課）

会生涯学習課）

紐持さと子（横須賀市浦賀行政センター）

古山美智子（横須賀市衣笠行政センター）

新岡孝大（横須賀市田浦行政センター）

石野雅樹（財団法人横須賀市生涯学習財団）

原 隆之（財団法人横須賀市生涯学習財団）

生涯学習財団）

和田 浩（財団法人横須賀市生涯学習財団）

生涯学習財団）

高橋直人（横須賀市教育委員会生涯学習課）

生涯学習課）

向原茂樹（秦野市立南が丘公民館）

栗原 旭（秦野市立西公民館）

熊澤淳子（秦野市立堀川公民館）

中山弘子（秦野市立南が丘公民館）

福土麗子（秦野市立西公民館）

山本暢子（秦野市立本町公民館）

西山正徳（大和市生涯学習センター）

タ）

◇第三部

○事例発表「厚木市立公民館の特色ある事業の紹介」

厚木市立公民館長連絡会会長

厚木市立睦合南公民館館長

木下敬之氏

厚木市の公民館

十五館と分館一館

の事業が紹介されました。

体験や学びの場

である

「学級講座」、伝統的な文化を継

承発展する「文化振興事業」、イベントを通じて地域の絆をつくる

「コミュニティづくり推進事業」、子ども達の豊かな体験の機会となる

「青少年健全育成会共催事業」など、参加者が生き生きと活動する姿が紹介される事例発表となりました。

◇第四部

○講演「どうなる 日本」

読売新聞特別編集委員

橋本五郎氏

新聞やテレビでおなじみの橋本氏が、日本の現状と未来についてユーモアを交えながら講演してくださいました。また、廃校となった母校に蔵書二万冊を寄付し、図書館となった「橋本五郎文庫」が、地域の居場所となり親しまれているというお話が印象的でした。その後、次期開催地の小田原市教育委員会前田輝男教育長に会旗が引き継がれました。



橋本五郎氏



「学級講座」、伝統的な文化を継

サークル紹介

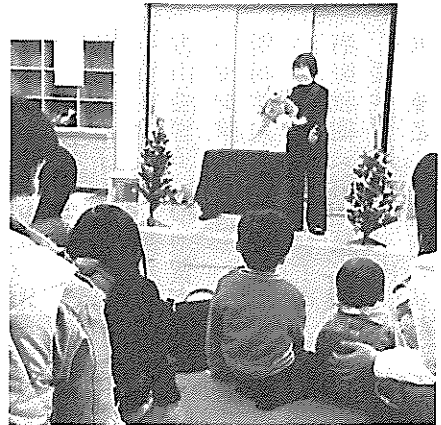
「おはなしクレヨン」 相模原市桂北公民館

おはなしクレヨンは『子ども達が心豊かに育ってほしい』という願いをこめて絵本などの読み聞かせをしているボランティアグループです。平成六年発足当初は三名でしたが、昨年は男性会員も増え現在十名で活動しています。

学社連携で子ども達を育てていく大切さが言われ始めたのを機に、相模湖地区の、各保育園、幼稚園、各小学校、公民館などで定期的におはなし会をさせていただくようになり、今では年間活動回数が一〇〇コマを超えるようになりました。活動を長く続けている間には、顔馴染みになり町なかで子どもが声をかけてくれる事がありません。嬉しい瞬間です。

出し物は色々ですが、会員の特徴が出るのはこの時です。昔話、今話題の絵本、季節感のあるもの、紙芝居などまさに十人十色の会員の個性が出ます。

公民館では毎月第一木曜日に〇歳児以上を対象に絵本の読み聞かせをしています。多くの方に聞いて



ただただ読ませたいという気持ちで、

また公民館主催の七夕まつりや子どもまつりなどでもおはなし会の時間をいただいています。公民館まつりにも毎年参加しています。以前、公民館まつりで絵本を読んだ時に地域の方が隣の方と「次はきつとこうなるよ」「あーやっぱり・・・」と話の展開を楽しんでいらつしやいました。聞いてくださる方達と共にお話の世界を共有できることが私達の何よりの楽しみであり励みになっていきます。また、「子どもが(孫が)喜んでくれます」と声をかけてくださる方もいます。おはなし会が終わった後「あー、面白かった」と笑顔で言ってくくださる時、私達も「聞いてくれてありがとう」と心から感謝の気持ちでいっぱいになります。これからもその気持ち

を忘れずに長く続けていけたらと思っています。

(代表 藤田尚美)

「Magical Crew」 清川村生涯学習センター ターセせらぎ館

マジカルクルーは、現在、約四十名以上の生徒が在籍するダンスの団体です。

レッスンは毎週月曜日に清川村生涯学習センターターセせらぎ館二階のみどりホールで行っており、生徒さんは地元清川村の方から厚木市、愛川町、相模原市の方などがレッスンを受けています。

年齢は、未就学児から、運動不足を解消したいお母さん、ダンスを極めたい高校生まで、本人のレベルに合わせ全部で五クラスでレッスンをを行っています。

また、発表会を年二回開催して、毎回七〇〇名近くのお客様にご来場いただきます。



ております。子供達には常に、沢山のダンサーに触れて刺激を受けたい、ダンスを通して仲間の大切さや、心から楽しむことなどを学んでもらいたいと思いい、こうした場所を提供し続けていきたいと思っています。



昨年は、東日本大震災があり、その際にも何か自分達でできることはないかとチャリティー発表会を開きました。おかげで、本当に沢山の義援金を募ることができました。自己満足かもしれませんが、

わが館の取り組み

「キャンパス

おだわら」

小田原市

生涯学習センターけやき

近年における社会情勢の変化に伴い、小田原市では市民の生涯学習活動に関する要望の多様化、高度化から、中央公民館に役割の改革が求められました。

これらに円滑かつ幅広く対応し、学んだ成果を地域社会で生かすことができる生涯学習社会を築くため、平成十九年四月、従前の

子供達にもちゃんとその意味を理解して出演させることができ、今皆が踊っている幸せを子供たちが感じてくれたのではないかと思えます。

その他にも地域のお祭りへの出演や、選抜チームでのイベントの参加も行っていますので、興味のある方は是非、気軽に体験にいらしてくださいね。

(代表 岩澤唯)

中央公民館を、生涯学習センターに名称変更し、開設されました。

これは、市民百人委員会による市民提言会議等を踏まえ、市民との協働により、まち全体を学びの場とした市民の学習を総合的に支援するキャンパスシティ構想の推進を図る小田原市の生涯学習振興の拠点施設となるものです。

これにより、旧来は貸し館等の事業が中心でしたが、生涯学習推進員養成講座を受講終了した民間の任意ボランティア団体(小田原市生涯学習推進員の会)が中心となって、新たに学習情報の提供や学習相談など、市民の生涯学習の総合的な支援と、地域社会を支える小田原の人づくりに行政と協働で取り組んできました。

この実績を踏まえ、一歩進めて生涯学習活動のさらなる振興のため、行政と民間団体が約一年かけて協議を積み重ね、市民が主体のおだわら生涯学習大学「キャンパスおだわら」を平成二十三年四月に生涯学習センターに開設しました。ここでは、誰もが気軽に生涯学習に取り組む機会や講座を提供するとともに、今後のまちづくりの担い手としての市民力育成を目指して、運営体制を市民主体へと移行しています。



「キャンパスおだわら」の主な事業には、市民・企業・教育機関・行政などが開設する「学習講座」、情報誌やホームページ、PLANETかながわなどインターネットによる「学習情報」、講座情報などの集約による学習支援の「学習相談」、市民の力を活用する「人材バンク」の提供があります。

「キャンパスおだわら」の各事業と事務局業務を民間団体であるNPO法人小田原市生涯学習推進員の会が業務受託しており、生涯学習センター内に提供された事務室に常勤しています。NPOが中心となり、企画・運営・情報発信を

一本化することで、市民の要望に対応し、分かりやすく効率良く、生涯学習についてワンストップでのサービスを提供しています。

また、生涯学習センターの受付・案内等についてもNPOが業務を受託し、総合的な生涯学習の場として、生涯学習における「新しい公共」の実践として、民間と行政が信頼関係のもと取り組んでいます。

新しい取組みであり、新組織での移行に伴うコミュニケーション不足や意識の違い等諸課題もありますが、この一年の成果を積み上げ、総括して、将来の全面的な自主運営につなげていきたいと思えます。

(NPO法人小田原市生涯学習推進員の会 奥村 昌宏)

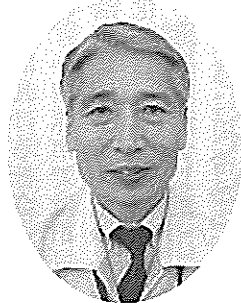
小田原市
生涯学習センターけやき

【所在地】
小田原市荻窪三〇〇番地

【電話】
0465-355300

【交通案内】
JR東海道線小田原駅下車徒歩十五分

職員からの一言



茅ヶ崎市教育委員会教育推進部
社会教育課鶴嶺公民館担当課長兼
館長

米山 明夫

現在の鶴嶺公民館に配属されて四年になります。鶴嶺公民館は茅ヶ崎市で二番目の公民館として昭和五十七年に開館して、今年で三十周年を迎えます。当時の周辺の写真を見ると、北側一面に田園風景が広がっていて、今の環境からは想像もできません。三十年の時間の経過を強く感じます。

さて、茅ヶ崎市では平成二十三年度から十年間を計画期間とする茅ヶ崎市教育基本計画がスタートしました。その中で、学校教育と社会教育を中心に地域の教育資源を活用した様々な体験や学習活動、交流ができる機会を提供することが求められています。これを受け、鶴嶺公民館では、平成二十三年度から次世代育成の一環

として、児童の放課後の居場所づくりの事業を展開しました。地域の方にお願ひして、折り紙、簡単な工作、紙芝居、囲碁など、毎週一回、平日の放課後に子どもたちが気軽に立ち寄って放課後の一時を過ごせる事業です。普段、放課後ロビーに来て、ゲームやカードで遊んでいる子どもたちですが、地域の大人の方の指導を受けながら、折り紙や簡単な工作など、何かを作り始めると、目が輝き、生き生きと制作に取り組んでいます。参加者はまだまだ少ないですが、この事業、さらに充実していきたいと考えます。さらに、平成二十四年度からは、公民館利用サークルの協力をいただき、孤独になりがちな高齢者の居場所づくりにも取り組んでいく予定です。今後も地域の皆さまと一緒に、地域課題や現代的課題をしっかりと据えた事業を着実に実施していきたいと思ひます。

編集後記

春は出会いと別れの季節。公民館では採用や退職、人事異動などなど。公民館は人と人とを結ぶ大切な場所だからこそ、その感慨

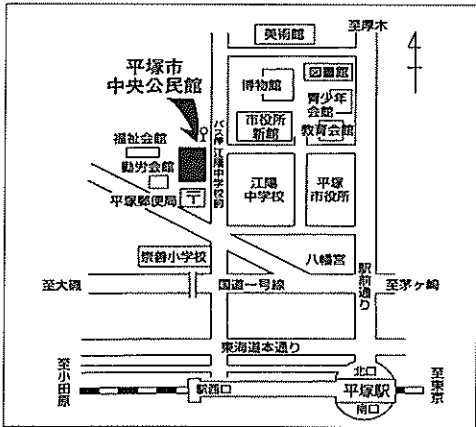
深さを実感するのかもしれませんが、これまで御活躍された皆様、お疲れさまでした。

平成二十四年度神奈川県公民館
連絡協議会総会の案内

○とき
平成二十四年五月十八日(金)
午後二時十分から
○ところ
平塚市中央公民館4階小ホール

○交通
JR東海道本線平塚駅下車
(徒歩)北口又は西口から15分
(バス)北口バス乗り場4番線

平63・65・68・86・97・62
(平67は通りません)に乗車約5分
江陽中学校前下車徒歩1分



表紙

《五所八幡宮例大祭》(中井町)

中井町の祭りで一番の賑わいを見せるのが「かながわのまつり五十選」にも選定されている五所八幡宮例大祭。新緑の季節四月二十九日に行われます。

境内では御輿の渡御、御霊遷をはじめとする神聖な祭礼が続き、この静粛さと対照的なのが山車の競演です。四台の山車が勢ぞろいするとその熱気はいやがうえにも盛り上がってきます。これらの山車や御輿が町中を練り歩き、のどかな田園風景に華やかな彩を添えます。

そして、夕暮れせまる頃、山車にともされた提灯や松明が中村川河畔に揺らめき、五所宮囃子が響きわたるなか御輿の川入りでフィナーレとなります。

この祭りの伝統を引き締めるのが「驚の舞」。古くから伝わるこの奉納は、雌雄一対の白衣の舞手が驚などを象った張り子をかむり、厳肅、荘重に舞うものです。

この種の舞は全国的にも珍しく、町指定重要文化財の第一号にもなっています。